を使って解説していきます。

キャッシュフローとは お金の流れ

まず最初に「キャッシュフロー計算書」が必要な理由を考えてみましょう。

キャッシュフローのキャッシュ(Cash)とはお金であり、キャッシュフローのフロー(Flow)とはその流れです。つまり、キャッシュフローは、「一定期間にお金がどのくらい入ってきたか、出ていったか」というお金の流れを表す指標、言葉です。キャッシュフローは黒字や赤字、儲かっている、儲かっていないなどの状態とは関係なく、純粋にお金の出入りだけで考えます。お金の「入り」には、大きく下記の3つがあります。

① 商品、サービスを販売することに

よって得られる売上入金

② 投資による収入

③ 借入や投資家からの資金調達

お金の「出」には、大きく下記の3つがあります。

① 仕入、経費の支払い

② 設備投資の支払い

③ 借入金返済

そして、1カ月や1年間などの一定期間での「お金の入り」から「お金の支出」を引いたものが、その期間のキャッシュフローということになります。企業には売上や資金調達、設備投資

や借入返済、納税など様々な項目で入金や支払いがあります。これらのお金の出入りは決められた会計ルールによって、資産や負債、収益や費用など、記録すべき項目が違います。そのため、正しい会計ルール通りに記録している

のに、かえってお金の流れが見えづらくなっている側面があります。

キャッシュフローと表現すると、難しく捉えてしまうかもしれませんが、基本的な考え方は家計簿やお小遣帳と同じです。複雑な会計ルールはいったん無視して、会社のすべての入出金をお金ベースで単純に記録するイメージを持つと、キャッシュフローの状態が見えてきます。

自分で稼いだお金だけではなく、借りたものでも預かったものでもお金が入れば、キャッシュイン、一時的に貸したもののや、経費や設備投資にお金を支出すれば、キャッシュアウトと捉えるということなのです。

**勘定合って銭足らずは
なぜ起こるのか？**

経営者が毎月確認しているのは、銀